

# 計画策定過程における住民参加・参画手法の確立

大谷 英人

## 1. 研究概要

まちづくりへの住民の参加が叫ばれて、久しい。確かに、従来のような「お達し」的な説明会は影を潜めている。さらに、1992年の都市計画法の改正、1997年の河川法の改正により、住民参加が制度化され、計画策定過程への住民の理解と参加・参画が必要となった。しかし、未だ県・市町村の多くは、住民参加・参画への知識・経験・技術等の不足により、従来型の形式的参加に留まっているのが現状であり、これからは、計画主体側からの積極的な住民参加・参画の活動が強く求められる。

しかし、住民参加・参画はいまだ試行錯誤的であり、体系化されたものとはなっていない。そこで住民参加・参画を社会技術としてシステム化・体系化する必要がある。

したがって本研究は、計画策定過程における住民の参加・参画手法をシステムとして確立することを目的とする。

## 2. 成果目標

### 2.1 計画策定過程における住民参加のシステム化

本研究は、土佐山田町都市計画マスタープラン（以下、「土佐山田町都市MP」という）策定過程において一連の住民参加活動を実践し、それらの認知と評価を行い、これらの考察をとおり、計画策定過程における住民参加のシステム化を図る。

#### 2.1.1 土佐山田町都市計画マスタープランにおける住民参加の実践

土佐山田町都市MP策定過程において多用な住民参加・参画の計画と実施を実施した。それらに

ついて考察する。

#### 2.1.2 住民参加活動に対する認知と評価

土佐山田町都市MP策定過程で実施した住民参加の活動が住民にどのくらい認知されたのか、また、それらはどのように評価されているかを住民へのアンケート調査により分析する。

#### 2.2 計画策定過程における「まちづくりワークショップ」のマニュアル化

住民のまちづくりへの積極的な関与・成熟化に伴い、各種の参画が模索されている。住民参画の重要な手法として「まちづくりワークショップ」（以下、「まちWS」という）がある。この「まちWS」を一般的な計画策定の各段階において、どのような内容を実施するかを検討し、まちWS開催のマニュアル化を提案する。

#### 2.2.1 住民参画としてのまちづくりワークショップの実践と評価

土佐山田町都市MP策定過程において、「まちWS」を設計・実践し、その結果の成果・問題点及び改善策を整理する。

#### 2.2.2 「まちづくりワークショップ」のマニュアル化

上記の実践及び評価等を基に、各種の一般的な計画策定過程において、どのような「まちWS」を開催すればよいかのマニュアル化を図る。

## 3. 研究成果

### 3.1 計画策定過程における住民参加・参画のシステム化

#### 3.1.1 土佐山田町都市計画マスタープランにおける町民参加（パブリックインボルブメント）の実践

## 1) PI の全体像

土佐山田MP策定過程で行われた住民参加活動を「公表」「協議」「参画」ごとに分類すると、表1のとおりであり、「公表」は7項目、「協議」は4項目、「参画」は3項目の合計14項目となる。

表1 土佐山田MP策定過程におけるPI

分類	項目	目的
公表	① 土佐山田MP策定委員の公募	これまで委員会の委員は、各種住民組織・団体等の役職者学歴経験者などを中心に構成されてきたが、これからは、計画策定過程に、意見を持つ住民が参画し、より良い計画をつくるための委員構成にすること
	② 土佐山田MP策定委員の公募策定委員会結果報告	①土佐山田町MP策定委員会の討議内容等を知ってもらい意見を出してもらうこと ②委員会の透明性・公開性を確保すること
	③ 高知新聞による土佐山田MP記事の掲載	マスコミを利用して、土佐山田MP策定の周知を図ること
	④ 都市計画の話	住民に都市計画について基礎的な知識を持ってもらうこと
	⑤ 地区別まちづくりWSのお知らせ	①地区別まちづくりWSへの参加者を募ること ②まちづくりWSについて周知を図ること
	⑥ 土佐山田MPホームページ	土佐山田MP策定過程における全ての情報を掲載・公開することで、より広く住民に情報を提供し、住民の知識や認識を深めてもらうこと
	⑦ 勉強会(まちづくり講座)	委員・行政者に都市計画についての知識を深めてもらい、委員会での議論の室を高めてもらうこと
協議	⑧ 意見募集・パブリックコメント	計画策定初期の段階から、自由な意見やアイデアを募り、計画案により多くの住民の意見を反映させること
	⑨ 質疑WS(第1回土佐山田MP策定委員会)	土佐山田MP策定関わる基礎的情報の共有
	⑩ 発表会WS(第2回土佐山田MP策定委員会)	地区別まちづくりWSの結果報告と討議
	⑪ 作文募集	小・中学生にまちづくりに関心を持ってもらうこと
参画	⑫ 良いとこ発見WS(第1回地区別まちづくりWS)	土佐山田MP策定にあたって、住民の潜在的・顕在的ニーズを引き出し、計画案に反映させること
	⑬ 計画づくりWS(第2回地区別まちづくりWS)	
	⑭ 土佐山田MP策定委員会WS(第3回～第5回土佐山田MP策定委員会)	計画案報告による討議を行い、計画案の内容をよりよいものにする

## 2) 住民参加の実践結果

土佐山田MP策定過程において実施した各住民参加への参加者や、使用した媒体等をまとめた。(表2)

### 3.1.2 住民参加活動に対する認知と評価

#### 1) アンケート調査の目的

本アンケート調査は、土佐山田MP策定過程において実施したPI活動に対する住民の認知と評価を調査することを目的とする。

表2 土佐山田MP策定過程におけるPIの実践結果

分類	項目	結果
公表	① 土佐山田MP策定委員の公募	町広報誌に1回の掲載 A4版紙面の1/3程度 応募者:6名(男性4名、女性2名)
	② 土佐山田MP策定委員の公募策定委員会結果報告	町広報誌に第1回土佐山田MP策定委員会結果報告記事を掲載(2003年7月号)
	③ 高知新聞による土佐山田MP記事の掲載	・2003年7月10日朝刊に掲載
	④ 都市計画の話	・町広報誌にて合計11回の連載 2003年6月号～2004年11月
	⑤ 地区別まちづくりWSのお知らせ	・お知らせ公報2003年7月号、8月号 ・広報誌2003年8月号
	⑥ 土佐山田MPホームページ	・2003年5月21日開設 ・アクセス者総数約1000名
	⑦ 勉強会(まちづくり講座)	・2003年5月～2004年2月の間に合計9回開催 ・委員に直接文書にてお知らせ ・土佐山田MPHP上にてお知らせ
協議	⑧ 意見募集・パブリックコメント	・応募意見数は0件
	⑨ 質疑WS(第1回土佐山田MP策定委員会)	・委員に直接文書でお知らせ
	⑩ 発表会WS(第2回土佐山田MP策定委員会)	・地区別まちづくりWS参加者と委員に直接文書にてお知らせ ・町広報誌に1回掲載
参画	⑪ 作文募集	・各小・中学校からのお知らせ
	⑫ 良いとこ発見WS(第1回地区別まちづくりWS)	・参加者104名
	⑬ 計画づくりWS(第2回地区別まちづくりWS)	・参加者98名
	⑭ 土佐山田MP策定委員会WS(第3回～第5回土佐山田MP策定委員会)	・第3回土佐山田MP策定委員会への参加者は15名 ・第4回土佐山田MP策定委員会への参加者は16名 ・第5回土佐山田MP策定委員会への参加者は18名

#### 2) アンケート調査の設計概要

アンケート調査概要は下記のとおり。

調査方法：郵送調査法

調査期間：2004年3月1日～13日

調査対象者

- ・全数調査《土佐山田町全戸配布(6,855世帯)》
- ・土佐山田町在住の18歳以上

#### 3) まとめ

##### ①情報媒体別認知計測

住民参加は、情報伝達(おしらせ)や情報提供等、その重要性から多くが取り組んでいる。また、その媒体は広報誌、新聞などである。しかし、これまでそれがどのくらいの人々に伝わっているのかは不明であった。そこで、土佐山田町の全世帯(20才以上の1人)にアンケート調査をすることによって、広報誌による認知は広報誌への接触頻度が高い年代ほど高いという特性(年齢別など)が知れた。

##### ②実施した住民参加の問題点と改善点

これまで、計画主体側から見た住民参加の問題点や改善策の研究はなされている。しかし、巻き込まれる住民側からの視点からの住民参加の問題点や改善策をまとめた研究は少なかった。本研究アンケート調査によって各PIの認知と評価

を定量的に捉えることができた。また、分析の結果、出された課題に対して住民側から見た住民参加の改善策が整理できた。

### 3.2 計画策定過程における「まちづくりワークショップ」のマニュアル化

#### 3.2.1 住民参画としてのまちづくりワークショップの実践と評価

土佐山田町都市計画マスタープラン策定過程におけるまちWS実践では、「現況の把握及び課題を整理する段階」では、①上位・関連計画質疑ワークショップ・②良いところ発見ワークショップを、そして、「計画の方針及び全体計画案を立案する段階」では、③計画づくりワークショップ・計画案(素案)④質疑ワークショップの、4つの「まちWS」を開催し、実践した個々の「まちWS」の成果・問題点及び改善策を整理できた。

#### 3.2.2 「まちづくりワークショップ」のマニュアル化

##### 1) 計画者が住民に対して開催するまちづくりワークショップのねらいの整理

土佐山田町都市MP策定過程を通じて明確となった計画者が住民に対して開催するまちWSのねらいを、各計画策定項目ごとに整理する。

「現況の把握及び課題を整理する段階」での大きなねらいをA、「計画の方針及び全体計画案を立案する段階」での大きなねらいをBとする。

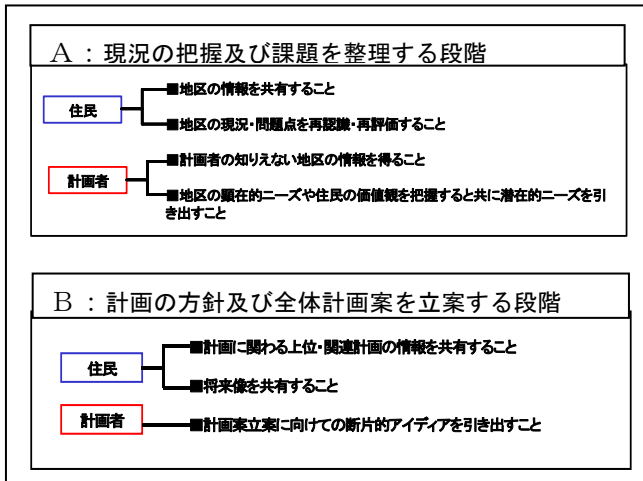


図1 まちWSでのねらい

##### 2) 計画策定過程におけるまちWS開催回数及びモデルの検討

まちWSの開催回数は、計画策定期間は2年間であるという前提条件から、「現況の把握及び課題を整理する段階」では4回の「まちWS」開催が、また、計画の方針及び全体計画案を立案する段階では6回の「まちWS」開催が妥当である。この合計10回の「まちWS」を、モデルとして提案する。(図2)

また、それらの設計内容例及びプログラムを提案した。

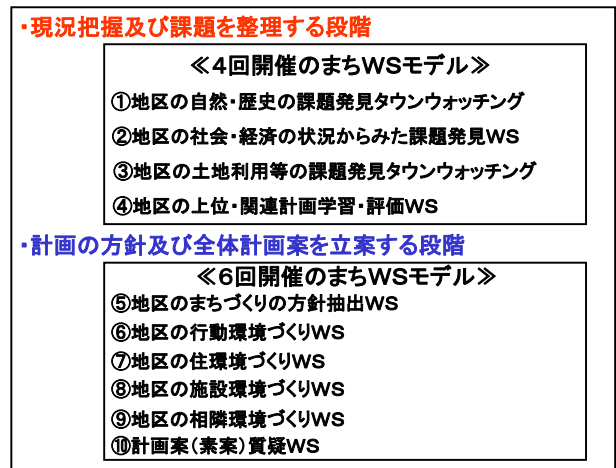


図2 まちWS開催のモデル提案

##### 3) 計画策定過程におけるまちWS開催案

以上の結果から、2年間の計画策定過程におけるまちWS開催案のフロー図で示す。

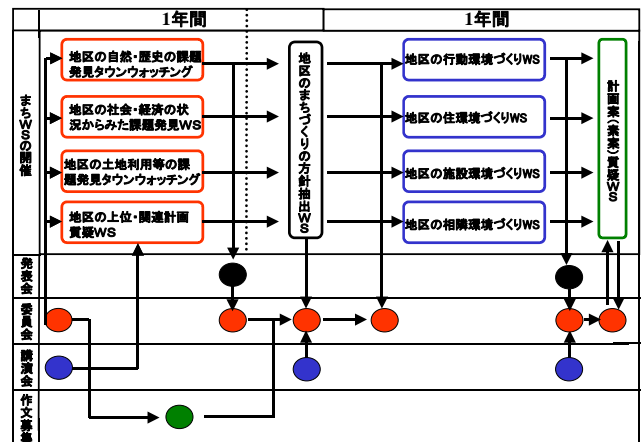


図3 計画策定過程におけるまちWS開催案

## 4. 教育成果

### 4.1 関連する修士論文のテーマ

この研究に関連する修士論文としては、下記がある。

- ・ 田村幸士「土佐山田町都市計画マスタープラン策定過程におけるパブリックインボルブメントの認知と評価」(2005年2月)
- ・ 武内俊樹「計画策定過程におけるまちづくりワークショップ開催のシステム化」(2005年2月)

### 4.2 関連する学士論文のテーマ

また、関連する学士論文としては、下記のとおりである。

- ・ 久保彰宏「アンケート調査からみたパブリックインボルブメントに対する住民の認知度」(2004年10月)
- ・ 渡辺仁志「土佐山田町都市計画マスタープラン策定過程における地区別まちづくりワークショップの実践と評価」(2004年10月)
- ・ 西森慧「アンケート調査からみた合意形成技術教育研修会の評価」(2004年10月)

### 4.3 発表論文

2004年5月に開催され社団法人日本建築学会四国支部研究発表報告会において、以下の論文を発表した。

- ・ 山口博之「土佐山田町都市計画マスタープランの位置づけ」
- ・ 有元和哉「土佐山田町都市計画マスタープランの計画構成上の課題」
- ・ 田村幸士「土佐山田町都市計画マスタープラン策定過程におけるパブリックインボルブメントの全体像」
- ・ 久保彰宏「土佐山田町都市計画マスタープラン策定過程におけるパブリックインボルブメントのねらいと結果」
- ・ 小林真由美「質疑ワークショップの実践と評価」

- ・ 渡辺仁志「良いところ発見ワークショップの実践と評価」
- ・ 武内俊樹「計画づくりワークショップの実践と評価」

また、2005年5月に開催される社団法人日本建築学会四国支部研究発表報告会には、以下の論文を発表する予定である。

- ・ 松浦卓也「パブリックインボルブメントに関するアンケート調査の概要」
- ・ 森本拓馬「委員公募 PI・委員会結果報告 PIの認知と評価」
- ・ 久保彰宏「都市計画の話 PI・勉強会 PI・ホームページPI・意見募集PIの認知と評価」
- ・ 嶋岡強太「土佐山田町都市計画マスタープラン策定過程におけるまちづくりワークショップの成果と問題点」
- ・ 西山伸二郎「計画策定過程におけるまちづくりワークショップ内容の検討」
- ・ 渡辺仁志「まちづくりワークショップ開催のモデル提案」

## 5. その他成果

### 5.1 高知におけるまちづくり活動への支援

土佐山田町での住民参加・参画の実践や、これまでの大谷研究室の活動実践の蓄積を基礎として現在、民間非営利法人(NPO)「高知まちづくり支援センター(仮称)」の設立を準備中である。

### 5.2 土佐山田町での中心市街地「まちなか研究室」の開設

また、大学の立地する土佐山田町の中心市街地を活性化するために「まちなか研究室(学外研究室)(仮称)」の開設を準備している。これは、現場での教育実践的な側面と、大学と地域の連携、社会貢献的な面を有している。